

令和7年度大磯町補助金等評価委員会 議事録

○日時 令和7年5月10日（土）9:00～11:45

○場所 大磯町保健センター 2階研修室

○出席者 委員5名出席

○事務局 町民課長、町民課担当職員

○傍聴者 7名

○会議記録

1. 議題

(1) 委員長、副委員長の選出について

○山岡委員が委員長、菅原委員が副委員長に決定。

(2) 令和6年度町民活動推進補助金事業結果報告について【公開】

○令和6年度報告事業ナンバー①

◆報告団体：ほとり

◆事業名称：地域にひらいた、日中のこどもの居場所づくり事業

◆事業効果、実施内容：実績報告書、収支決算書のとおり

◆補助金の交付額： 100,000円

◆質疑応答（9.44）

【委員】一年間、お疲れさまでした。遠足について質問をさせていただきます。

補助金を活用した補助金は年3回実施されたとのことですが、他に交通費を使わない遠足をしていたのか、または、お金が足りず交通費に使うことができなかつたのかどちらでしょうか。

【団体】両方なのですけど。交通費を使わない時もありました。あとは、交通費をかけて行っているけれども補助金の予算の中で賄いきれなかつた分もあるので、自己資金や寄付金の中で賄いました。

【委員】資料ではドメイン使用料が使用料の項目に含まれていますが、スライド資料では通信運搬費となっているので、統一した方が良いと思います。

【団体】ありがとうございます。

【委員】充実した活動ができて、大勢の方にとって貴重な場所となっているということでもうれしく思います。平均すると一日5人程度の利用とのことですが、メンバーは固定されているのでしょうか。また、現在の体制で何人まで受入れが可能でしょうか。例えば、倍の10人来たときはどの

ように対応されていますか。

【団体】例えば、10人来たとして、年齢層が別れていて、母親と会話をしている子や、スタッフのように手伝いをしてくれる子もいるので、10人に増えても対応できています。食事については、毎回10時くらいにならないと、当日の人数が分かりませんが、急に人数が増えると苦勞することもあります。利用するメンバーは同じようなメンバーで、一部町外からの親子で来る方もいますが、急に人が増える性質の施設ではないので、安定して運営できています。

【委員】昨年の申請段階では、チーム体制大丈夫かなという声があったのですが、たくさんの方に活用されて素晴らしいと思いました。お疲れさまでした。今年、活動を増やすことになると思うのですが、体制的にも大変になり、運営面が少し心配なのですが。

【団体】そこまで大変ということではなくて、子どもに対することや、各機関とか調整、個人的に相談を受けたりすることが時間外にはあるのですが、そのようなこと覚悟してこの活動をしているので、それに対して負担を感じているということはありません。あとは、昨年度、ほとりの活動のワークショップ等に参加してくださった方や活動を気にかけてくれた方がボランティアとして参加してくださっているんで、今後もこのような活動を継続する事で、関わってくださる仲間が増えていったらいいなと思っています。

【委員】ありがとうございました。

【委員】素敵な活動されているなと思います。保護者の方も家庭的な悩みなどでお困りの方のケースが多いと思うんですね。スタッフが少ないのをどのように調整されているのかということと、小学校や中学校ともやり取りされているのかお伺いします。

【団体】家庭的な悩みや問題等で通ってきているお子さんが多いなというのは感じていて、その子たちのケースで、これは行政の支援が必要とか外部の支援が必要だなという場合には、必要な機関にお繋ぎしたりします。お話ししたうえで、家庭に訪問していただくこともあります。あとは、中学生については、もともと私は中学校で15年間教諭をしていましたが、家から出られなくなる子供が多かったと感じているんですね。本当であれば、そちらの支援をもっとしていきたいと思っているのですが、そのあたりは教育支援室の先生を通じてフォローしてもらいたいなと考えています。今

年度もできればその活動も続けていきたいと思っています。

【委員】昨年度の活動お疲れさまでした。高校生以上の若者世代が多いですという意見が聞けたのは、行政としてもとてもプラスの部分。そういった方たちの居場所がないとか自己肯定感を深めてあげる機会がなかなか少ない中で、このような場所で、利用者だけでもスタッフ側の役割をやっていただいている人がいるというのは、すごくその方達にとってプラスの時間なのかなといった印象を持ちましたので、ぜひその方が社会と繋がっていただけるようなところまでサポートしてあげられるように活動を継続していただきたいなと思います。その中で、スタッフさんが多くない中で、ボランティアさんにも協力してもらっているということで、事故は無かったと思いますが、ひやりと感じることはあったのかと、もし、あったのだとしたら改善策をどのように取られたのか教えていただけますか。

【団体】ほとりで活動する中で、ひやりとした場面は、昨年度はなかったです。皆さん穏やかに過ごしており、運動したこともあるのですが、危ないということはなかったように感じています。

【委員】ありがとうございます。ただ、やはりひやりが無かったからでなく、ひやりにならざるを得ないというところもぜひ、ボランティアさんと一緒に考えていただけたらありがたいと思いますのでよろしくお願いします。

【委員長】では、時間になりましたので、質疑応答はおしまいにさせていただきます。団体の皆さん、本日はありがとうございました。

○令和6年度報告事業ナンバー②

- ◆申請団体：Lopo(Life of Photography Oiso)
- ◆事業名称：地域と人、人と人をつなぐ、大磯写真芸術プロジェクト
- ◆事業効果、実施内容：実績報告書、収支決算書のとおり
- ◆補助金の交付額：100,000円
- ◆質疑応答

【委員】お疲れさまでした。去年の収支決算書だと、謝金が減額になっている理由と、内容を教えてください。

【団体】雑誌制作から撮影会などを中心とした活動に変更したためです。謝金の内容はデザインやライティング費用に充てています。

【委員】私、3月に図書館にたまたま行ったらこれをやっていて、素晴らしかったと記憶しています。事業実施にあたり、自己負担があるかと思い

ますが、活動すればするほど、かなり出費が増えることになると思いますが、そのことについてどのようにお考えですか。

【団体】 5年、10年続けると、自己資金の支出が増加すると思うのですが、1年や2年であれば自分のライフワークの作品作りも兼ねているので自己資金を使ってもよいと思っています。来年は展示会だけじゃなく、冊子や写真集、フォトカレンダーのようなものを販売していきたいと考えています。

【委員】 これだけ良いものができたのであれば、様々な事業で活用できれば良いと思いますが、何かお考えはありますか。

【団体】 町の広報誌の表紙なりに写真を使ってもらうとか、様々な活用ができると思います。これは、ぜひぜひ本人たちの承諾をいただきながら広く活用していきたいと思っています。

【委員】 ありがとうございます。

【委員】 1年間活動お疲れさまでした。すごく素敵な写真を撮られて、町民の方もすごく嬉しい活動に繋がったんだなという感じを受けたのですが、やはり、町民活動推進補助金という観点の中から、昨年度申請していただいた時には、町のブランドや魅力の向上を目的にしています。ということをお伝えいただいてたと思うのですが、そのあたりの手ごたえといいますか、例えば活動している仲間が増えたとか、自分達の活動を発信してくださるような、撮られた方というのでしょうか。被写体の方から色々発信していただいて、素敵な活動をしていただけている方がいるんだよということをPRしてくれた実績があるとか。そういったことがあったら教えてください。

【団体】 今、おっしゃっていただいた通りなのですが、単に写真を撮って差上げたわけではなくて、写真に自分の名前と一言を書いているのですが、そうすると大磯が好きとかみんなでもっと良くしようなど非常にポジティブなメッセージが一人じゃなく、たくさんの方が並んで充実した表情が並ぶ光景は非常にすごいなということがありました。また、撮らせていただいた方がSNSで発信してくれる方もいました。他にも町内で配布される紙面にも使いたいといった相談もありました。

【委員】 ありがとうございます。活動する中で、こんなことができたらいいな。あんなことがあったらいいななど、気づきがありましたら、継続して活動していただけるとのことですので、ここにいる皆様と一緒にご提案していけばいいなと思いますのでよろしく願いいたします。

【委員長】ありがとうございました。では、時間になりましたので、質疑応答はおしまいにさせていただきますと思います。団体の皆さん、本日はありがとうございました。

(3) 令和7年度町民活動推進補助金事業採択に係る審査について【公開】

・令和7年度審査事業ナンバー①

◆申請団体：ほとり

◆事業名称：地域にひらいた、日中のこどもの居場所づくり事業

◆事業効果、実施内容：企画提案申請書、収支予算見込書のとおり

◆補助金の交付希望額：110,000円

◆質疑応答

【委員】続けていただいてありがとうございます。収支予算見込書を見ていて感じるのですが、寄付金が去年の決算書から見ても、寄付金が非常に多く入っている形で予算見込書も作ってはいませんが見込みはありますか。

【団体】コミュニティカフェを月に一回やっていくということや、イベントに参加してくださる方からの寄付を見込んでいます。あとは、ほとりで作った石鹸があるのですが、それをちょっと定期的に販売し、全額寄付に回していく活動をしたいと考えています。

【委員】ありがとうございます。これは、事務局に質問なのですが、成果物の販売収入は、寄付と事業収入どちらでしょうか。

【事務局】今回、事業収入に該当するかと思います。

【委員】寄付をたくさん増やす方向性はよいと思いますが、今のご説明だと抽象的に感じたので、どこからどれくらい増やす話なのか具体的に見通しを立ててやっていただけるといいなと思います。あと、令和7年度の新たなこととして、土日も開設するとおっしゃっていたのですが、土日を入れるというよりも平日をもう少し増やした方がよいのじゃないかと思っているのですが、あえて土日を含めて活動する背景があれば教えていただきたい。

【団体】平日、月水金でやっていますが、土日は、大磯の地域の活動が充実しているんですね。その地域の活動にほとりとして参加することでその子供たちも参加しやすくなります。家族だったり、一人だったりだと、なかなか地域の行事に参加できないけれど、土日でも、ほとりとしてはいけるという子は実際にいるので、土日の活動を増やしていこうと思っています。

【委員】月に1回の遠足とありますが、スタッフが少ない中で、外に出るとき

の安全面や保護者に対するお知らせとかはどうされていますか。

【団体】前もって、遠足に行きたいかどうか参加確認はしているのですが、時々、子供だけほとりに来てしまうことはあります。ただ、遠足の日だけは、スタッフ3人いるようにしています。安全面でいうと、教員時代に培ったノウハウに沿って、歩き方とか電車とか自動車とか横に広がったら危ないとか、いろいろな交通ルールを踏まえて安全に配慮しています。

【委員】教育委員会に対して文部科学省から通知があるかと思しますので、ぜひ参考にさせていただき、安全を確保しながら外出していただけるとありがたいと思います。あともう一つ、小学生には、自分のやりたいことをやる。自分たちの居場所を作る。やりたいことをやってもらうというという不登校のお子さんが、まずここに来ることが一つの目的になっていますので、今話を聞いていますと、外に出ることに関して活発に活動していることもPRしていましたが、来るだけでいいよというお子さんにを大切にしていかななくてはいけないと思うんですね。そのバランスは皆さんどう捉えているのかお聞かせください。

【団体】外に開いた活動を今年度は取り入れていくというところでは、ゆっくりとここに来るだけで十分だと彼らにとっては、大変な活動だと思うのですね。そういう子達にとって、こういう活動はするよと伝え、だけど無理強いせず。基本的に月水金のゆっくりとしたほとりの時間というものは確保しつつ、屋外での活動はプラスアルファというスタンスでいます。

【委員】スタッフは何人くらい必要ですか。

【団体】5人くらいいけば入れ替わりでできます。

【委員】昨年、ご質問ご指摘させていただいた保険の加入というところを予算化していただけていますが、スタッフの方は保険に入っているようですが、参加されているお子さんについて保険は今どのようにしていますか。

【団体】今年度の保険については、スタッフは予算の中で確保させていただいています。希望する子どもに関しては、保護者に保険料は払ってもらい加入しています。

【委員】補助の対象外のところなのですが、お食事の提供をされているので、食中毒とかそういったところはかなり気を使わなければいけないところだと思うのですが、食事を提供することに関して、その手続き、例えば平塚保険福祉事務所さん等に手続きを取らなくてはいけないですとか、そういったところは確認をされたうえで提供されていて、必要な手続きの漏れ

はない認識でよろしいですか。

【団体】今、食事を提供しているコミュニティスペースでの食事の提供は認めていただいています。私個人としても、食品衛生管理者の資格は取らせていただいていますので、その辺は、いろいろなノウハウを身に着けたうえで食事の提供をしています。

【委員】ありがとうございます。活動されているエリアが大磯小学校、中学校区が中心なのかなという感じがするのですが、大磯は横に長いので国府小学校、中学校エリアでも、おそらく同じように居場所を必要としている子もいるのではないかなと思うのですけれども、国府エリアに対してのPRだったりとか、国府のほうからボランティアに来てくださっている人がいて活動が少し広がり、同じ活動がやりたいなという志を持っている方がいて、教えてあげたいなといったような流れはありますか。

【団体】まずは、教育委員会主催の協議会というものがあまして、不登校の児童、生徒のことを考える会がありまして、それは定期的に教育委員会でやっています。その中には国府小中学校の先生、大磯小中学校だけでなく、教育委員会の方々など、いろいろな方が参加されているので、ひとりについては知っていただいて、必要な人に居場所があるということ伝えていきます。国府地区のニーズもあるかなとは思って伝えてはいますが、なかなか国府地区から大磯地区に来るのは難しく課題だと思っています。ただ、国府地区に住んでいる仲間もいますので、その人たちも巻き込んで何か一緒にやっていきたいと考えています。

【委員長】ありがとうございました。では、時間になりましたので、質疑応答はおしまいにさせていただきたいと思います。団体の皆さん、本日はありがとうございました。

・令和7年度審査事業ナンバー②

- ◆申請団体：Lopo (Life of Photography Oiso)
- ◆事業名称：地域と人、人と人をつなぐ、大磯写真プロジェクト事業
- ◆事業効果、実施内容：企画提案申請書、収支予算見込書のとおり
- ◆補助金の交付希望額：200,000円
- ◆質疑

【委員】お疲れさまでした。収支予算見込書の事業収入の販売収入が、5万円と書いてありますが、単価はいくらでしょうか。

【団体】2つくらいやり方がありまして、高い単価のものはの数を少なくして、施設や店舗に置いてもらうパターンか、もしくは1,000円か1,500円くらいのもので販売することを想定しています。

【委員】去年200人くらい撮影したということで、今年度も同じくらいですかね。

【団体】同等程度を見込んでいます。2回やって、去年はオープンにしても積極的に来る方は多くは無いので、個別にオファーをしていました。

【委員】町民活動推進補助金なので、町民活動をしている方にフォーカスしてやっていただくと良いかと思しますのでご検討ください。もうひとつは学校をひとつのきっかけにして若い世代とも繋がっていくのも良いと思います。相談があれば対応するというレベルなのか。あるいは、売り込んでいくじゃないですけど、ぜひ大磯のキャリア教育の中にこういう地域の方たちと進めていくのかできたら。

【団体】1回は実現できればと思っておりますが、ちょっと自分のリソースにも限りがあるので、一度実現できればというふうに思っております。きっとこれをやることで結構色々いい反響があるんじゃないかなあとは思っております。後半でできればなど。

【委員】予算見込書からすると、自己資金が多いなというところで、計画性というところが心配になるのですがいかがでしょうか。

【団体】今年、来年度は大丈夫ですが、団体として健全にまわるほうが良いと思います。これ自体僕らの作家の制作活動は、皆、身銭を切って活動しているところはありますが、団体としての活動ではその理論ではないと思いますので、例えば、教育の分野につないでいくとか移住の支援とか。それは、個人の範囲を超えた活動はもちろん自己資金を使うべきではなので、できる限り自己資金を使わない形で事業を継続していきたいと思っております。

【委員】ありがとうございます。補助の期間が3年ということがありますので、3年が終わった後、活動が終わってしまうと寂しいなと思っております。

【団体】そこはちょっと大事にしたいなと思っております。まず、2年でこのコンテンツを充実させたり、教育とか移住の分野を充実したりというところはあります。今回一緒にやっている方達もプロとして活動している方達なのですが、意外と町での活動は少ないかもしれないですが、活動してみると手ごたえなど、ポジティブに感じているので、あとはこの写真集を作るとか、グッズを作るみたいなことで、事業として小さな規模でも回

っていくっていうことをこの2年間で作れると良いかと思えます。

【委員】とてもいい活動をされてるなと思ってますが、今本当におっしゃった通り、継続性というか、今後のビジョンというところをすごく私も「ああ、どうだろうな、どうだろうな」と思いながら伺ってました。ただ、今のこういうお話を聞いてると、「人」というテーマですけれども、例えば地域、大磯でボランティアやってる方とか、大磯で仕事をしてる方とか、いろんなテーマを作っていくと、そこを楽しみに、大磯に行きたい、大磯町以外の方がどう感じていくかとか、そういうテーマみたいなものを作って皆さんと共有すると、すごく楽しみができるというか、そういうものがあると、何かまたもっと素敵なことができるかなと思いました。

【団体】連載されることを期待してくれるっていうのは、どっかのメディアにちゃんと出て、みんなが認知してる状態だと思います。展示会などをシリーズ的に継続して、全町民に目を向けてもらう機会を増やすという意味では良いかなと思います。今後はポップアップ展示や広報印刷物などに載せていくとか。町ともうまくマッチングするものがあればいいかなと思います。

【委員】私も収支のことが気になります。素晴らしい活動なので認知度が上がることで協賛とかを集めることができるかと思えますので頑張ってもらいたいと思います。

【委員】会員が7名じゃないですか。この撮影会などの運営はほぼその7名ですか。

【団体】そうですね。

【委員】例えば、撮影会や展示会の中の運営でボランティアがいるといいなと思いました。特に子供たちは、プロの写真家が撮影する場面が見れるとか、関われることは経験的に価値が高いと思いますし、それを手伝いをしてくれるから、広がりが出てきたりとか。あるいは、もしかすると将来は写真家になりたい自分も撮影したいとか。そういうこうボランティアの受け皿とか受け入れみたいなものも、考えていただくとその繋がりを作るという部分ではいいかなあと思います。

【団体】ありがとうございます。検討します。

【委員】活動される方のためだけの補助にならないようにっていう視点も大事だと思います。仲間を増やすとか、本当に町民にいろんなものが還元されていく。逆に、色々な活動のPRの素材を撮ってあげるみたいな。そういう

ことで「こんな活動をしている人が大磯にはいて」、例えば毎日ラジオ体操をやっているグループさんとかもいらっしゃるの、そういうのをご紹介してあげて、そういう活動の先で仲間が増えるとか。そういうこともご検討いただけたらいいなというふうに思っております。

【委員長】ありがとうございました。では、時間になりましたので、質疑応答はおしまいにさせていただきたいと思います。団体の皆さん、本日はありがとうございました。

・令和7年度審査事業ナンバー③

◆申請団体：大磯遺構調査団

◆事業名称：文化財調査・保全事業

◆事業効果、実施内容：企画提案申請書、収支予算見込書のとおり

◆補助金の交付希望額：100,000円

◆質疑

【委員】お疲れ様でした。まず、一点が、発足年月日ですが、令和6年7月から活動されているとのことですが、そこからは何か活動はされていましたか。また、調査することは、事業で取り組む課題として個人の敷地内に入るとありますが、町から協力とか得られるのでしょうか。

【団体】個人の敷地に古墳があったりとか、防空壕があったりとか、そういったところも多いので、趣旨を住民の方にお話しして了承いただくことが多いです。もう1点、7月に発足してから調査結果を公表しました。

【委員】今まで調査したときは、具体的に何を調査をしているのか。もうひとつは、外部講師の実施、講師とありますよね。講師謝礼とありますが、この方ってどのような方なのかを教えてください。あとボランティア保険が5000円。これで足りるのか、その辺りが気になりました。

【団体】調査結果というところですが。大磯丘陵に見えないところも非常に多いのですが。まずは分布をどんどん把握して調べ、地図に乗せて、記録に残して今一覧を作っています。あと測量をして図面を作り、報告書にまとめています。保険については加入したことがないので分かりませんが、これから詰めていきたいと思います。外部講師については、私が講師になることを予定しています。

【委員】外部講師は例えば大学の専門の方とか、そういう方を想定しているわけではないのですか。

- 【団体】大学の専門の方っていうのはいらっしゃらないです。私自身も講演活動をしている実績もあります。
- 【委員】大磯に限らず、他の地域で研究というか調査結果があったとか、そのような事例はありますか。
- 【団体】横穴をやっている方は他地域にいらっしゃいます。鹿児島の研究とかですね。
- 【委員】令和10年度に、3年間の調査をまとめるという計画ですけど、その後の継続性は。
- 【団体】調査のひとつまず3年ということで、調査結果を発表させていただければというところ。それで終わりではないです。調べれば調べるほど疑問点が出てきますから。意欲がある限り、ずっと続いていくつもりです。
- 【委員】今回のその調査は、この会員構成の10名で調査をするということでしょうか。
- 【団体】10名以上になると思います。町民の方で興味ある方に御参加いただいています。
- 【委員】記録を広報を知らせていくとか、発信していくっていうのは今後はどう考えていますか。
- 【団体】今年度は、調査結果を専門誌で、発表していくということはやってます。これはもう15年前、20年前からやってきたことです。そのスタンスは変わらないので大磯の広報へ寄稿するなど内容をもっと広めていきたいと思っております。
- 【委員】専門誌等で発表いただくっていうのは、学術的に非常に重要なことだと思いますが、町民活動という観点からすると、もう少し広く専門性もないような人たちも関心を持ったりできるような情報発信の仕方を考えていただけるといいなと思うんですけどそこについては。
- 【団体】実は今年の夏、郷土資料館の人たちが、あの戦時中の展示会をやるということで協力を依頼いただきました。同様に横穴墓とか古墳、防空壕についての展示をしたいなど。
- 【委員】町民活動推進補助金っていう形になるので、あくまで補助金っていう観点から行くと、ある程度の公益性であったり、公共性っていうような町民の方に対して、あるいは町行政にとってのメリットの部分っていうのを少し意識していただく必要があるのかなと思います。事業計画の中で今年度どういうふうの実施をされていくのか、あるいは今後、長く続けて、自

立して長く続けていただくという観点のところ、あの、小学生から高校生を対象とした現地見学会っていうのも検討されてるっていうことなんですけど、いつ頃、どれぐらいの人数をどういった形で募集して実施されていけるのか。その計画について具体的に教えてください。

【団体】見学会については、古墳とか、壕とか山の中になると思うんですが、これはちょっと難しいですので、秋以降ですね。郷土資料館やホームページ、チラシ、SNS でできればいいなと思っています。

【委員】あと定期的に新会員の募集をしていると思いますが、会員は本当にもう全然知識のない方、初心者の方っていう方でも関心があれば自由参加というような形で参加ができるっていうイメージで募集をかけられるのか。また、募集もやっぱりその SNS を使うのか具体的に教えてください。

【団体】新会員に関しては、関心があれば十分だと思います。なかなか専門性がある方もいらっしゃらないので、まず興味を持って知っていただくということですね。そこに重きを置きたいなというふうに思っております。募集の方法なんですが、SNS を活用してやっていくしかないのかなというふうに思います。

【委員】町民活動推進補助金の趣旨のところを十分に踏まえていただいて、広くいろんな方が参加できる、あるいは目にすることができるっていうようなことを少し意識してやっていただきたいなというふうに思います。

【委員】やはりそのどれだけ町民の方に周知というか、知らせていけるのかわかってところが肝心なのかなと思います。すぐに興味を持てる分野ではないと思うので、小学生や高校生を対象に現地見学会とかの活動もされると思うんですけども、その周知方法、広報の方法ですとか、そのアプローチの仕方とかを工夫が必要かなと思いました。もう 1 点、その収支予算書では事業収入とかがないので、今年度その町の補助金が使えたとして来年以降継続できそうですか。

【団体】来年度以降も町の補助金があっても、なくても活動自体は続けていきたいと思っております。

【委員長】ありがとうございました。では、時間になりましたので、質疑応答はおしまいにさせていただきますと思います。団体の皆さん、本日はありがとうございました。

・令和7年度審査事業ナンバー④

◆申請団体：トコトコ

◆事業名称：障害の有無にかかわらず安心して暮らせる居場所づくり

◆事業効果、実施内容：企画提案申請書、収支予算見込書のとおり

◆補助金の交付希望額：54,000円

◆質疑

【委員】令和6年度はどのような活動をされていたのでしょうか。自由に遊べる場所というのは屋内または屋外を想定しているのでしょうか。

【団体】昨年、団体として登録したのですけれども、今のメンバーで施設に集まって、メンバー以外の方も呼んだりして、親子と一緒に遊ぶということをしました。メンバーの子供たちが、重度の知的障害の子が多くて、囲まれた空間で安全に活動できる場所を探してやっています。

【委員】仲間を増やしていきたいという感じですか。

【団体】はい。元々私たちは、今。小学校高学年のご家族なんですけど、以前悩んだり、情報がなかったりして困った経験があります。障害を持った子どもが遊ぶ場所がない、情報得られないといった方が来てくれたらなと思います。

【委員】収支のところでボランティア謝礼とありますが、このボランティアはどういう方を想定していますか。

【団体】直接お声をかけてる段階ではないんですけれども、ちょっと手伝いたいと言ってくれる方がいらっしゃるので、お声がけできればなと考えています。

【委員】たぶん、発達に課題があるお子さんであれば、新しい場所や慣れてない場所に行くとストレスに感じてしまう。そういうことではないかと思って。同じ場所でいつも安心して活動できる場所作りとしていいのかなと思います。お子さんたちがすごく大変な思いをしているのではないかなと思います。

【団体】岩田孝八記念室内競技場は室内の運動場で広くて危険なものもないので適した場所だと思っています。そのような場所でパラバルーンなど遊具を使って居場所を作りたいと思います。

【委員】申請の事業名なんですけど、「障害の有無に関わらず安心して暮らせる居場所づくり」ということで、事業目的については、「障害のある方が住み慣れた地域で」ということで、障害を抱えている方、あるいはそれを支えているご家族、ご兄弟っていうところが中心になってスタートを切られて、仲間を増やして長く続けていただく必要がある事業だと思います。障害のある方の住みよい町っていうのはもちろん必要なんですけれども、社会は共生社会と言われてまして、障害の有無といった考え方すら取り払うという考え方があります。相互理解っていうようなところを少し将来的には達成していただきたいなっていうところが正直な感想です。補助金を使って、居場所や安心、情報発信はすごく大切なことだと思いますし、発信していくことで地域の方が障害に対する理解を深めていくっていうことはもちろん必要だと思います。そのため、発信の部分もしっかり頑張っていたきたいなと思います。ヘルプマークについては、商標登録されているものになりますので、利用に関してのガイドラインとか、そういったところをご確認済みでしょうか。

【団体】ガイドラインはまだ確認しておりません。

【委員】そのようなところを踏まえてやっていただいて、後からトラブルにならないようにしていただきたいと思います。

【団体】皆さんが立ち上げたばかりの団体だと思うんですけど、その活動の中で他団体の参加っていうのがありますが、将来的にこういう団体や活動を目指していきたいみたいな目標はありますか。

【委員】町と協力してなにかできればと思います。町内の障害福祉事業者とも連携を深めていきたいと思います。

【委員長】ありがとうございました。では、時間になりましたので、質疑応答はおしまいにさせていただきますと思います。団体の皆さん、本日はありがとうございました。

・令和7年度審査事業ナンバー⑤

◆申請団体：みずべぐらしプロジェクト

◆事業名称：みずべぐらしプロジェクト

◆事業効果、実施内容：企画提案申請書、収支予算見込書のとおり

◆補助金の交付希望額：250,000円

◆質疑

【委員】 設立が去年の6月ですが、活動としては令和7年度からとなっていますが、令和6年度はどのような活動をされていましたか。あと拠点作りを開始されているということなんですけど、借りている賃貸物件だと思うんですけど、収支予算見込書の方には使用料2万円で、その家賃が入っていないので、どなたかの名義で借りて、その方がやっぱり負担されている感じですかね。

【団体】 みずべぐらしプロジェクトとして借りているわけではなくて、僕が借ります。僕が家主として借りて、賃料を払っているという形です。

【委員】 そこは収支に出てこないということですね。

【団体】 入れていません。

【委員】 参加費3000円。これは参加される方がお一人3000円ということで、時間は何時間くらいを想定されていますか？

【団体】 2時間です。

【委員】 参加される方は保険に入っていますか。

【団体】 こちらの団体で加入しているというよりは、保険に加入するように説明をさせていただいて、各自で加入していただく形にしています。

【委員】 お子さんが参加することはありますか。

【団体】 子供だけで参加することはないです。保護者の方の同伴、あとは5歳以上という制限をしております。

【委員】 1回で5人がサップをやるということなんですけど、インストラクターは何人いらっしゃるんですか？

【団体】 最低2人はつきます。インストラクターは今10人くらい動けるメンバーがいて、その中から2人くらい選んで。僕もインストラクターですけど、もともとサップの競技をやっていたメンバーなどで構成しています。

【委員】 今後例えば4年後、5年後、この補助金がなくなってきた時に、どういうふうに自走していくか、ビジョンがあれば教えてください。

【団体】 今は自分たちがイベントを企画して、開催して、来てもらうというスタイルですけど、ゆくゆくは先ほど見せた「週末水辺暮らし」というコミュニティ型の方が発展していったら、参加者の方が増えてきたら、その中で自走というか、僕らが「開催します」とならなくても、自然と場が生まれるような形になっていくと持続性を持って続けていけるかなと思っているので、そういう形を目指して、まずは広げていくことが大事だと思っています。

【委員】コミュニティ作りを目指していくということやっていくんですけど、その想定しているコミュニティの規模感とか、メンバーとか、そのあたりのイメージを。

【団体】メンバーの構成は、基本的には大磯とか二宮の地域住民の方、去年の感じで見ても二宮の方も多いです。年代は、去年を見てもすごく幅があるので、あんまり限定はしていませんが、特に最近移住してきた方で、地域に入るきっかけとしてこのイベントを選んでくれる方が結構いらっしやあって、そういう移住者の方の繋がるための場所であったりとか。規模感的には、最終的には20~30人の継続的に参加してくれる方がいるとコミュニティとしてちゃんと機能してくるかなと思っているので、そこを目指してやっていきたいと思っております。

【委員】拠点改修用の資材購入費というのがかなり大きいと思うんですけど、これはどういうものを想定していて、どういう改修を想定していますか。

【団体】今の家の構成が3DKなんですけど、一部屋は僕が住んでいて、あとの部屋をイベント時に開いて集まってもらって、シャワーとかトイレとかを利用していただきながら拠点にするんですけど。その際に必要な脱衣所とか、浴室とかトイレとか、そういうところが元々ちょっとボロボロな状態から借りているので、そこを直すお金とか、木材とか塗料とか、そういうものがイベントを安全に行うために最低限必要な改修として見込んでいます。

【委員】この拠点は長く使える見通しはあるのですか。せっかく改修したけど、大家さんから3年くらいしたら返してと言われるとか。

【団体】それは大丈夫です。契約的には2年なんですけど、大家さんからは「長く住んでほしい、使ってほしい」と言われていますし、「改修も自由にしていい」という感じで承諾を得ているので、そこは貸していただける限りはやらせていただきたいと思っております。

【委員】町民活動の補助金なので、個人で借りておられるお宅を町の公金で改修するっていうのは、やっぱりそこはちゃんと町民の公益的な活動に使われるということがある程度担保されていないと難しいかなと。

【団体】承知いたしました。

【委員】事業収入があるので継続的にやっていくことは可能なのかなと思っ
ているんですけど、やはりちょっと心配なのが、もし水辺の活動なので事故
が起こったら大変だなと。これまで危ないなと思ったことがあったかとい

うことと、あとライフジャケットとか、こういう天候の時はやらないという明確な基準が皆さんで共有されているのかどうかをお聞きしたいです。

【団体】 イベント開催の判断基準は明確に出ている、前日のうちに現地で確認して判断して共有するというのを徹底しています。ライフジャケットも必ず着用しますし、タイプも引っ張らないといけないタイプ（膨張式）とかありますけどそうじゃなくて、初めての方でも浮けるように浮力だけで浮くようなものを使っています。あとはボードに落ちた時にどうするか、その前段階のレクチャーも必ず僕が実演して見せたりしながら、安全性には注力してやっていくという感じです。これまでに事故に繋がるようなことは、今のところ一度もないです。

【委員】 やはり安全対策ができてい事業なのかどうかというところはしっかり見ていかないといけないところなのかなというふうに思います。保険の種類って本当にいくつもあって、そのイベントの開催ごとというふうなものだったりとか、参加者さんから確実に入ってもらえるような形をとるとか、色々そこは保険会社に相談するとあるんじゃないのかなという気がするので、そこはご検討いただく必要があるのではないかなというふうに思います。やはり命に関わることになりますので、そこはやはり主催者さんとして、町民の皆さんに、あるいは地域の皆さんにこの活動を知ってもらって参加してもらって、せっかくね、ゴミ拾いしてもらったりとか水辺の環境を整えるというようなところもやっていただいているのであれば、そういった意味ではしっかり安全が確保された事業なんですよというところもしっかり打ち出していく必要があるのかなという気がします。

【団体】 そのあたりはもう一度検討して、保険なども別の方法がないか検討してみようと思います。ありがとうございます。

【委員長】 ありがとうございます。では、時間になりましたので、質疑応答はおしまいにさせていただきます。団体の皆さん、本日はありがとうございます。

以上で全てのプレゼンテーション、質疑応答が終了しました。